



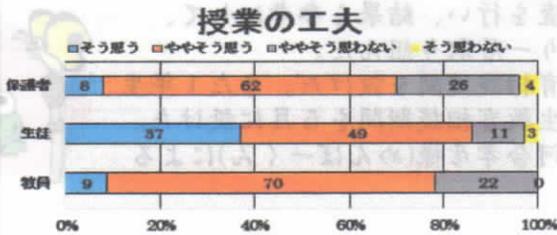
教育活動アンケートを実施して

平成27年度教育活動アンケートにご協力いただきありがとうございました。保護者・地域の皆様からいただいた回答をまとめ、その集計結果を参考にしながら来年度のよりよい教育活動に向けて全職員で検討しました。これを受け学校評議員会で委員の皆様からご意見もいただきました。以下、教育活動アンケートの結果を報告します。

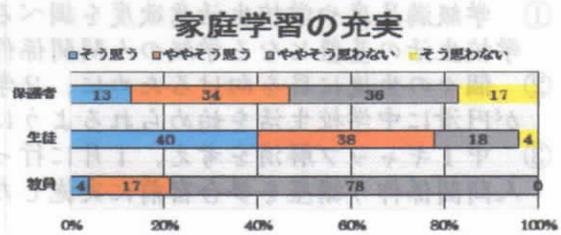
学校評価質問項目の中から、本校の学校教育目標「心豊かに自ら学び、自己実現をめざす生徒」の達成の指標となる項目を中心に保護者、生徒、教員の三者を比較しました。

◇ 保護者・教員・生徒の結果から

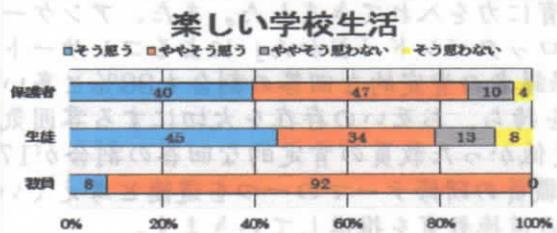
NO.1



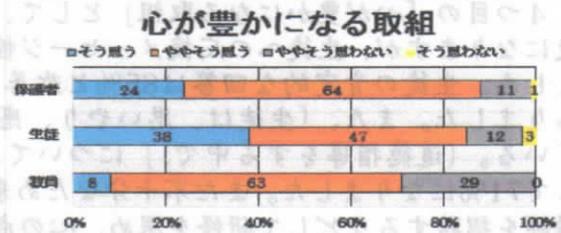
NO.2



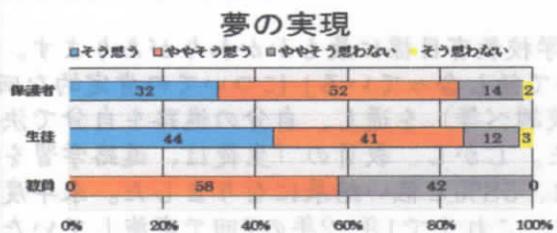
NO.3



NO.4



NO.5



生徒用の設問と26年度、27年度の肯定的な回答割合

No.	アンケート内容	H26	H27
1	先生は、わかりやすい授業をしようと工夫していると思いますか。	84%	86%
2	あなたは、家庭学習をきちんと行っていますか。	79%	78%
3	あなたは、学校が楽しいですか。	74%	79%
4	あなたは、思いやり、感謝の心を持ち、仲間を大切にする雰囲気を作ろうとしていますか。	82%	85%
5	あなたは、進路学習(職場体験、高校調べ等)を通し、自分の進路を自分で決めようとしていますか。	78%	85%

※数値は「そう思う」と「ややそう思う」をあわせたもの

「授業の工夫」については、「先生は、わかりやすい授業をしようと工夫をしている」という問いに対して保護者は70%、生徒は86%、教員は79%が肯定的な回答をしています。

さらに学校全体で授業作り研修を継続して、発問や授業形態の工夫、言語活動を取り入れるなど授

業改善に取り組んでいきます。

2つ目の「家庭学習の充実」については、本校の課題の一つと考えられます。結果を見ますと、「家庭学習をきちんと行っている」という問いに生徒は78%が肯定的に回答しているのに対し、保護者は47%、教員は21%しか肯定的にとらえていません。これは、生徒はやっていると考えている姿も見ていた保護者のみなさんの目には不十分と映っているということです。教員は集団の中に占める取り組みが不十分な生徒、改善が進まない生徒の割合がこれまでの経験と比較して多いと感じています。そこで、自学自習の勧め等、学校としても家庭学習の充実に力を入れていきたいと思えます。また、このことについては、学校評議員会でも取り上げられ、学校の改善策としては、学習便りで生徒の工夫した学習方法を紹介している。しかし、学習の仕方に個人差があるため、授業の中で個に応じたアドバイスや具体的な家庭学習の方法を教えるとよいという指摘をいただきましたので、改善策の参考にさせていただきます。

3つ目の「あなたは、学校が楽しいですか」という設問に対して、昨年度は肯定的に答えている生徒の割合は保護者、教員のとらえよりも低く、その大きな要因として、生徒は勉強以外に人間関係のトラブルや自己肯定感が得られていないことがあると考えました。そこで、本年度は次の①～③の対応をしました。結果として、保護者、教員の意識より低い状態は変わりませんが、昨年度と比べて5%増えて79%に改善されました。

- ① 学級満足度や学校生活意欲度を調べるQU検査を行い、結果を参考にして、学校生活の基盤となる学級の人間関係作りにより一層取り組んだ。
- ② 個々の生徒に目を向けるために、2学期に教育相談週間を設けた。また1年生が円滑に中学校生活を始められるように、1年生教育相談期間を5月に設けた。
- ③ 中1ギャップ解消を考え、1月に行っていた河合孝彦様(めんぼーくん)による人間関係作り講座を夢合宿前に実施した。



4つ目の「心が豊かになる取組」として、道徳教育に力を入れてきました。また、アンケート実施後になりますが、生徒への応援メッセージ性の高いロックバンド「おかん」によるコンサートを行いました。生徒の肯定的な回答は85%と改善され、保護者の肯定的な回答の割合も88%と高いものがありました。また、「生徒は、思いやり、感謝の心を持ち、お互いの存在を大切に作る雰囲気を作っている。(道徳指導をする中で)」について、昨年度低かった教員の肯定的な回答の割合が17%増加して71%になりました。まだ不十分なため来年度も職員の研修テーマの一つを道徳と考えています。講師を招聘するなどして研修を深め、心の成長を図る道徳教育を推進していきます。

5つ目の「夢の実現」ですが、この設問が本校の学校教育目標に最もかかわりがあります。結果を見ますと、保護者の「お子さんと将来(進路)について話し合っている」についての肯定的な回答は、84%、生徒の「あなたは進路学習(職場体験、高校調べ等)を通し、自分の進路を自分で決めようとしている」は、85%という高い数値になりました。しかし、教員の「生徒は、進路学習を通し、自分の進路を主体的に決定しようとしている」では、58%と低い結果になりました。来年度は生徒が夢を描き、計画的に進路決定に目を向けるように、これまで1年・2年の2回で実施していた職場体験の機会を2年時の1回にして、1年時に職業調べ学習を充実したり、先輩から技を学ぶ会(1年)の開催時期を早めるなどします。合わせてこれまでどおりに高校調べ(2年)、進路学習(3年)などを配し、自分の可能性や適性を知り、夢の実現に向けて努力するキャリア教育の充実を目指します。

また、愛鷹中で特設してきた検定チャレンジデーの英語検定を市内全中学校で3年生対象に実施することを市教育委員会が、愛鷹地区社会福祉協議会が継続してきた認知症サポーター講座(1年)を市内全中学校1年生で実施することを市長寿福祉課が計画しています。このように、これまで夢の実現を目指すきっかけ作りとして愛鷹中が取り組んできた事業が高く評価されています。

アンケート結果をもとに、協議をいただいた学校評議員会では、前述の家庭学習の指導方法に加え、生徒にとって学力がつく楽しい授業実践づくりを目指すようにご示唆をいただきました。また、地域の教育資源と人材を生かした長期的な視野に立った実践、そこで生まれる生徒の地域愛と地域の活性について意見が交わされました。

ここに掲載しませんでしたでしたが、自治会長様をはじめとして地域の方々に記述していただいた内容につきましても、貴重な意見として今後の教育活動にいかしていきたいと思っています。お忙しい中、アンケートに御協力いただきありがとうございました。